

忘れるからこそつないでいく

浦添市立当山小学校六年 眞榮城 百恵

私は 夜の海の船に乗った
対馬丸に乗った人達と同じ体験をするために
友達と対馬丸記念館の学芸員さんと
みんなで乗った
最初は正直ワクワクしていたけど
日がだんだんおちてきて
暗くなった
寒くなった
不安になった
やーさん飯しか食べてないから
お腹が空いた
気持ちも悪くなった
家では
「お腹が空いた」と言わなくても
おいしいご飯がでてくる
そのあたりまえが
あたりまえではないことを知った
私のひいおばあちゃんは
対馬丸事件の生存者だった
引率していた教え子を全て亡くし
生き残った事を後悔し
みんなから責められた
食べる物もなく
これから先もわからず
絶望しか残らなかつたと聞いた
私には行く資格なんかないと
ずっと慰霊祭には行けなかつたと聞いた
これを聞いた時
衝撃が走った
信じられない
ひいおばあちゃんの気持ちを想像するだけで
心が辛かった

私ならきつとたえられない
だけどひいおばあちゃんが生きてくれたから
生きのびてくれたから
今ここに私がいる
命をつないでいる
生きている
友達とハンドボールができる事
お父さんとふざけあって笑うことができる事
母の日にマッサージをしてあげられる事
兄弟と一緒にゲームをして遊べる事
これが私の日常で
これが私の平和なのだ
この平和を手ばなしたくないし
なくしたくない
私が体験した
やーさん・ひーさん・しからーさん
もう二度と体験したくないし
そんな現実のない世界にしたい
今 平和な毎日だからこそ
その平和のありがたさを
時々忘れてしまいたいそうになる
ひいおばあちゃんから受け継いだ命の尊さを
忘れてしまいたいそうになる
だから私はずないでいく
平和が何かを
戦争のおそろしさを
命の尊さを
忘れるからこそつないでいく